

製鉄が行った長時間クリーブ破断推定手法の検討結果が報告された。

#### 鉄鋼標準試料委員会

第4回常任委員会 開催日：10月23日。出席者：川村委員長，ほか13名

##### 議題

1. 標準値の決定（強靱鋼，高速度鋼，硫黄分析専用鋼，酸化鉄，焼結鉄，マンガニ鉄，鋳物用鉄）
2. ほたる石の鉄物組成について
3. 日本鉄鋼標準試料講習会
4. アンケート解析中間報告
5. その他

#### 鋼鉄基礎共同研究会

##### 融体精錬反応部会

第6回部会 開催日：10月19日。出席者：森部会長

ほか25名

1. 研究発表
  - (1) 脱リン反応時における溶鉄，スラグおよびスラグ-メタル界面の酸素
  - (2)  $\text{Na}_2\text{CO}_3$  による溶鉄の精錬について（第2報）
  - (3) ソーダ炭系およびライム系フラックスによる溶鉄予備処理
  - (4) 石灰系溶鉄予備処理スラグの  $\text{CaF}_2$  の効果について
  - (5) 転炉スラグの熔融還元におけるPの挙動
  - (6) 気泡分散モデルによる流体の流れおよび気-液間物質移動の解析
  - (7) 熔融金属中への不活性ガス吹き込みによる浴内循環流動と均一混合時間
2. 協議 次回部会 昭和57年1月25日（月）

## 会誌「鉄と鋼」UDC 標数記載打ち切りのお知らせ

会誌「鉄と鋼」では昭和47年1月号（第58年第1号）から国際十進分類によるUDC標数を論文，技術報告，技術資料，解説類，講演大会講演概要集に記載し，会員ならびに関係読者の文献検索の便に供してきましたが，昭和56年12月号（第67年第16号）を最後にその記載を打ち切ることになりました。

最近までの文献検索は，カードシステムが中心で文献検索に有効な分類体系であるUDC分類法を，イギリス，フランス，ドイツ，ソ連など主要国の情報処理機関が採用し，国際協力による情報管理が推進されていました。

しかしながら近年情報管理にもコンピュータの導入が進み，オンラインにより端末機からの文献検索が可能となりました。コンピュータによる文献管理はキーワードが中心となりUDC分類体系はほとんど使用されなくなりました。従つてこれまでにUDCに基づいた英国The Metals SocietyのABTICS (Abstracts and Book Title Index Cards Services) カードもすでに業務を停止して，米国American Society for Metalsと共同で，新たに金属工学文献のデータベースMETADEXの作成へと方向転換をしています。

本会鉄鋼技術情報センター（JISTIC）では情報管理システムの変革に対処し日本科学技術情報センター（JICST）と密接な連絡のもとコンピュータによる情報処理を進めてまいりました。

会員ならびに関係読者にはJISTICに設置の端末機からご要望に基づいた情報を迅速に提供できる体制を整えておりますのでご利用方ご案内申し上げますとともに，国際的な情報管理体制の趨勢に鑑みて，UDCの記載打ち切りいたしました事情をご賢察いただきご了承さるようお願い申し上げます。